

千葉大学教育学部附属中学校同窓会
発足70周年記念祝賀会



平成30年6月30日

千葉大学教育学部附属中学校同窓会

《三井ガーデンホテル千葉》

千葉大学教育学部附属中学校（一中・二中・統合後）

同窓会発足70周年記念祝賀会

次第

1. 開会

2. 会長挨拶

※「70年の歩み」（DVD）の披露

3. 来賓挨拶：附属中学校 藤川 大祐校長

4. 恩師代表挨拶

5. 事業報告

6. 乾杯

7. 懇談

※ピアノ演奏：村上 巖氏（昭和63年卒）

※マジックショー：大友 貴子理事（昭和63年卒）

8. 校歌・生徒歌 斉唱 / 合唱（一中・二中・統合後）

※ピアノ伴奏：村上 巖氏（昭和63年卒）

9. 閉会

千葉大学教育学部附属中学校沿革

- 昭和22年4月1日
(1947) 学校改革による6・3制の実施に当り、千葉師範学校男子部・女子部に附属中学校が設置され、千葉師範学校男子部附属中学校・女子附属中学校として、それぞれ発足した。
- 男子附属中学校は、千葉市市場町に師範学校第一寮の東側階上4室、階下2室を使用し、運動場は師範学校と併用、生徒は千葉師範学校男子部附属小学校高等科1年修了生44名を第2学年（男女共学）に、同小学校6年卒業生102名を第1学年（男女別学）の3学級ではじめられ、初代主事香村寛蔵（師範学校教官、男子部附属小主事と兼任）、教頭真行寺清、教諭板橋佐多雄、大野達雄、山内久子のスタッフであり、授業は師範学校と附属小学校の教官の応援を得ていた。
- 女子附属中学校は、印旛郡四街道町四街道、陸軍野戦重砲兵学校東北隅の旧兵舎2階建1棟を小学校と半分ずつ使用し、2,000坪の校庭は小学校と併用、生徒は千葉師範学校女子部附属小学校からの者と、四街道へ移転に伴い、千葉師範学校と印旛郡旭村との間でかわされた協定、旭村四和学区、すなわち、旭村鹿渡、三才、和良比の3地区の生徒を旭村から千葉師範学校女子部に移管する契約に基づいて、つくられた学区からの者で構成、男女共学で第2学年1学級、第1学年2学級ではじめられ、初代主事鶴見卓三（師範学校教官、女子部附属小主事と兼任）、教頭桧貝虎之助、教諭地引登志夫、石原文平のスタッフであり、授業は師範学校女子部教官の応援を得ていた。
- 男子部・女子部とも、この年、PTA、生徒会、創設される。
- 昭和23年4月1日
(1948) 専任理事（のちの校長となる）男子部飯田朝（昭和23年4月～40年3月）、女子部鶴見卓三就任。
- 教育課程の編成、PTA組織、校舎の改修などが行なわれ、生徒も3学年がそろい、学校としての体制が整う。
- 昭和24年3月1日
(1949) 男子部、学校文集「ともづな」創刊される。
- 5月31日 学制改革に伴う千葉大学の発足で、国立学校設置法により、千葉大学千葉師範学校第一附属中学校、第二附属中学校と改称される。
- 12月10日 第二附属中学校校長に城丸章夫（昭和24年12月～昭和31年9月）就任。
- 昭和26年4月1日
(1951) 千葉大学の改組に伴い、文部省令により校名が千葉大学教育学部附属第一中学校、第二中学校と改称される。
- 4月2日 附一中、実験実習室、便所を残し火災のため校舎消失、師範学校校舎にて授業となる。
- 昭和27年7月8日
(1952) 附一中、白鳥省吾作詞、信時潔作曲の校歌が制定される。
- 昭和28年8月
(1953) 附一中、第1回同窓会総会開かれる。同窓会名簿発刊（7月1日）。

昭和30年 3 月 4 日 (1955)	附一中、新校舎落成式挙行される。
昭和32年 3 月15日 (1957)	附二中、学校文集「まがき」刊行される。生徒作詞作曲による生徒歌（校歌に代わるものとして歌われる）誕生。
昭和37年 4 月 (1962)	附一中、教育学部が西千葉移転に伴い、旧学部建物は附一中で全面使用となる。
昭和38年 (1963)	統合移転問題具体化する。
昭和39年 2 月 (1964)	附属中学校設立対策委員会設置される。同時に附属中学校設立対策 P T A 委員会も設置される。
3 月	附一中の閉校を記念し、18年の歩みを中心に記念誌「さらば亥鼻」発刊される。
昭和40年 4 月 1 日 (1965)	附属第一中学校と附属第二中学校の統合となる。 初代校長香村寛蔵が着任し、千葉市弥生町に千葉大学教育学部附属中学校として発足する。教頭金坂哲雄、専任教諭26名、講師 7 名、事務職員 5 名のスタッフで出発。生徒は、2・3 年生は旧一中、旧二中から移った者で構成。3 年生男子120名、女子103名、計233名、2 年生男子152名、女子93名、計245名、1 学年は附属一小、二小から進学した者と補欠募集で合格した者を含め、男子130名、女子121名、計251名。1 学年 5 学級編成となる。
昭和41年 4 月15日 (1966)	白鳥省吾作詞、中田義直作曲による校歌と、校旗の制定、発表会開かれる。
昭和42年 4 月 (1967)	生徒の全員が生粋の附属中学校入学制となる。 知的発達障害児対象の学級が開設される。
昭和50年 4 月15日 (1975)	統合10周年記念行事として統合10周年記念誌と卒業生名簿の作成、記念植樹が行なわれる。
昭和51年 4 月 1 日 (1976)	<u>附属一中、二中の統合に伴い、同窓会も一中、二中を統合して発展、附属中学校同窓会と称す。同窓会として一中・二中合同の卒業生名簿を発行する。</u>
昭和57年 3 月 (1982)	旧附属一中、二中、附属中合同での「同窓会名簿」発刊される。
昭和60年 4 月15日 (1985)	統合20周年記念行事を行う。 「聡明」の碑の建設、校門の改築、桜の記念植樹、記念誌の発行。
昭和63年 3 月 (1988)	同窓会名簿（昭和62年度版）を発刊。
平成 6 年 7 月 (1994)	同窓会名簿（平成 6 年度版）を発刊。

千葉大学教育学部附属中学校同窓会会則

1. 本会は、千葉大学教育学部附属中学校同窓会と称する。
2. 本会は、長く母校を記念し、会員相互の親睦と教養の向上を図ることを目的とする。
3. 本会の事務局は、千葉大学教育学部附属中学校内におく。
4. 本会の会員をわけて、特別会員と正会員とする。
5. 特別会員は、千葉大学教育学部附属中学校（旧一・二中を含む）旧・現教職員とする。
6. 正会員は、千葉大学教育学部附属中学校（旧一・二中を含む）を卒業したる者を原則とする。
7. 正会員は、会費を納めることとする。
8. 本会は、次の役員をおく。

(1) 会 長 1 名	(2) 副 会 長 1 名	(3) 理 事 若干名
(4) 会 計 2 名	(5) 会計監査 2 名	(6) 名誉顧問
9. 本会の役員の選出とその仕事
 - (1) 会長は正会員より選出され、役員を指名し会務を統轄する。
 - (2) 副会長は、会長を捕佐し、会長事故あるときは会長を代理する。
 - (3) 理事は、本会の円滑な運営にあたる。
 - (4) 会計は、本会の運営費の管理にあたる。
 - (5) 会計監査は、本会の会計を監査する。
 - (6) 名誉顧問は、千葉大学教育学部附属中学校長とする。
10. 役員の任期は二ヶ年とし、再任をさまたげない。
11. 会長、副会長、理事、会計、会計監査をもって運営委員会を構成し、随時協議を行う。
12. 本会は、会長が必要と認めたときに総会を開くことができる。
13. 本会の目的を達成するために、運営委員会は、次の事業をおこなう。

会誌の発行、会員名簿の作製、文化活動、その他
14. 本会の会計は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終る。
15. 本会の会則は、運営委員会にはかり変更することができる。
16. 本会の細則は、別にさだめる。

千葉大学教育学部附属中学校同窓会 役員名簿

会 長	:	小 池 啓 嗣	(一 中 14回・昭 和 37年 卒)
副 会 長	:	櫛 部 健 夫	(統 合 1 回・昭 和 41年 卒)
理 事	:	坂 井 久 雄	(統 合 3 回・昭 和 43年 卒)
		松 澤 明 彦	(統 合 4 回・昭 和 44年 卒)
		奈良林 稔	(統 合 4 回・昭 和 44年 卒)
		四ノ宮 貫	(統 合 5 回・昭 和 45年 卒)
		栗 原 裕	(統 合 5 回・昭 和 45年 卒)
		永 野 明 宏	(統 合 6 回・昭 和 46年 卒)
		羽 田 徳 治	(統 合 6 回・昭 和 46年 卒)
		鈴木 敏 也	(統 合 7 回・昭 和 47年 卒)
		坂 本 紹 一	(統 合 9 回・昭 和 49年 卒)
		小 島 成 文	(統 合 14回・昭 和 54年 卒)
		安 田 尚 弘	(統 合 15回・昭 和 55年 卒)
		鈴木 恭 代	(統 合 15回・昭 和 55年 卒)
		吉 田 貴 行	(統 合 23回・昭 和 63年 卒)
		大 友 貴 子	(統 合 23回・昭 和 63年 卒)
		岡 山 咲 子	(統 合 33回・平 成 10年 卒)
		小 林 和 貴	(統 合 43回・平 成 20年 卒)
会 計	:	青 柳 総 太 郎	(統 合 2 回・昭 和 42年 卒)
		鈴木 英 一	(統 合 3 回・昭 和 43年 卒)
会 計 監 査	:	大 野 淳	(統 合 4 回・昭 和 44年 卒)
		川 口 恒 彦	(統 合 4 回・昭 和 44年 卒)
名 誉 顧 問	:	千葉大学教育学部附属中学校長	
同窓会担当	:	三 宅 健 次	(附 属 中 学 校 副 校 長)
		五十嵐 辰 博	(担 当 教 員・統 合 35回 卒)

※ 同窓会会則第9条(1)に基づき、平成30年4月14日決定

同窓会ホームページ：<http://chibadaifuchu-dousoukai.org/>

同窓会フェイスブック：

<https://www.facebook.com/groups/322457564591890/>

70年の歩み

昭和22年4月 学制改革による6・3制の実施にあたり、千葉師範学校男子部・女子部に附属中学校が設置され、千葉師範学校男子部附属中学校・女子部附属中学校として、それぞれ発足。PTA、生徒会も創設。

昭和24年5月 学制改革に伴う千葉大学の発足で、千葉大学千葉師範学校第一附属中学校、第二附属中学校と改称。

昭和26年4月 千葉大学の改組に伴い、校名が千葉大学教育学部附属第一中学校、第二中学校と改称。

昭和27年7月 附属第一中学校、白鳥省吾作詞、信時潔作曲の校歌制定。

昭和30年3月 附属第一中学校、新校舎落成式举行。

昭和32年3月 附属第二中学校、生徒作詞作曲による生徒歌（校歌に代わりに歌われる）誕生。

昭和40年4月 附属第一中学校と附属第二中学校が統合し、千葉市弥生町に千葉大学教育学部附属中学校として発足。

*生徒は、二・三年生は一中・二中から移った者で構成し、3年生223名、2年生245名、1年生は附属一小・二小から進学した者と補欠合格した者を含め、251名。1学年5学級編成となる。

昭和40年4月 開校式举行。白鳥省吾作詞、中田喜直作曲による校歌及び校旗の制定。

昭和42年4月 特殊学級を設置（F組とした）。

昭和48年4月 特殊学級が養護学校として独立分離。

昭和50年4月 統合10周年記念行事（統合10周年記念誌と卒業生名簿の作成及び記念植樹）。

昭和51年4月 一中、二中の同窓会を統合し、「附属中学校同窓会」を発足。

昭和52年 入学適性検査に抽選制を導入。

昭和54年4月 帰国子女生を受け入れる。

昭和57年3月 一中・二中、附属中合同の「同窓会名簿」発刊される。その後、昭和63年、平成6年に発刊。



一中校舎と開校式



二中校舎



弥生町（西千葉）の統合時の校舎



生徒棟



体育館

- 昭和60年4月 統合20周年記念行事（「黎明の碑」の建設，校門の改築，桜の植樹，記念誌発行）。
- 平成 7年4月 統合30周年記念行事（統合30周年記念誌の作成，記念講演，記念演奏）。
- 平成 8年 入試制度変更（4教科・抽選・面接）。
- 平成 9年1月 旧校舎の解体，新校舎の完成に伴う移転。
3月 新校舎（教室棟）竣工。
4月 新校舎竣工記念式典挙行。
- 平成11年12月 新校舎（管理棟）の完成に伴う移転。
- 平成12年2月 新校舎（体育館）の完成に伴う移転。
5月 新校舎（管理棟・体育館）竣工記念式典挙行。
- 平成13年 入試制度変更（2教科・抽選）。
- 平成16年4月 千葉大学が国立大学から国立大学法人へ移行。
- 平成17年4月 第1学年を5学級から4学級に削減。以後年次進行で平成19年に全学年4学級に編制。
4月 統合40周年記念行事（記念講演）。
- 平成20年 入試制度変更（4教科・抽選）。
- 平成25年 入試制度変更（4教科のみ）。
- 平成27年4月 統合50周年記念行事（記念式典，記念講演，記念演奏，記念誌発刊，表札及び学校教育目標の設置，同窓会より大型スクリーン寄贈 他）。
- 平成30年6月 同窓会発足70周年記念祝賀会開催。

黎明の碑



建築中の新校舎と旧校舎



新校舎（校庭より）



体育館（プール側より）



新校舎（生徒棟）



中 庭

千葉大学教育学部附属第一中学校 校歌

白鳥省吾 作詞
信時 潔 作曲

いきいきと [♩=約108]



そ ら に は わ か ば か がー や き て ー ー む ね に は

も ゆ る 白 山ー の 火 い の は な だ い に

ま な び やー の れ き し を ほ こ る わ が い っ

中 個 性ー と 自 重ー つ ね に あ れ

一、天^{そら}には若葉輝きて

胸には燃ゆる自由の火

亥鼻台に学び舎の

歴史を誇る吾が一中

個性と自重つねにあれ

二、袖師ヶ浦の波静か

遙かに富士を望みつつ

われら明るく健やかに

伸びゆく声はこだませり

品位と礼儀つねにあれ

三、真理を求め諸共に

不断の努力^{たゆ}撓みなく

文化の日本打ち建つる

其の魁^{さきがけ}の吾が母校

平和と秩序つねにあれ

付属才二中学校生徒歌

作詞 — 神原克重
作曲 — 寺内 昭

Moderato (♩ = 100-104)

mp

お お ら か に — お き う ふ す か ぎ り は
あ き ら か に — そ う — す み と お り あ
あ う ひ き す — み ど — り の ま — つ の

mf

る は る と — つ ら — な る だ い ち か ぜ ふ き お こ る ち
あ あ と — な が — れ る ひ か り あ お け は わ た る し
う は こ に — つ く — は は て — り は つ ら つ と し て み

f

へ い の か な た き ほ う は く も の こ — と く に わ —
ら と り の よ う に こ こ ろ ほ た か く ほ — た く の —
は — き る ち か ら あ ふ れ る わ か い い の ち の い ち —

mp

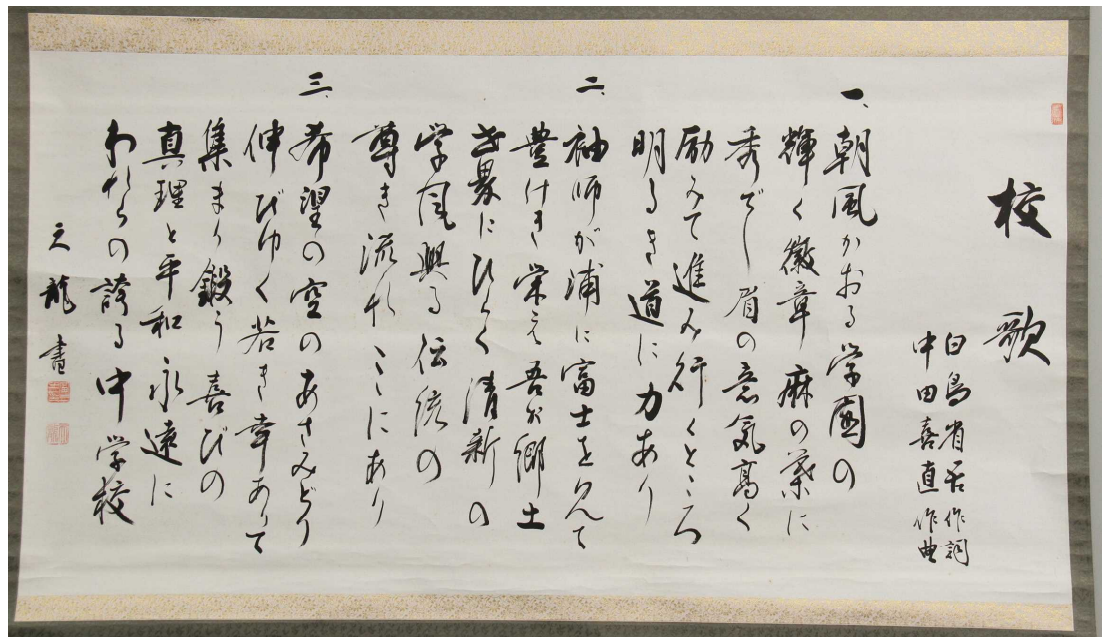
roco a roco

cresc. f marcato

く わ — れ ら の ま — え に か か や く の か あ — る
た わ — れ ら の う — え に こ ろ が る そ ろ が あ る
き わ — れ ら の 中 が く あ — あ ふ そ く た — に

cresc.

千葉大学教育学部附属中学校



(混声四部合唱用)

力強くそして美しく ♩ 96位

白鳥省吾 作詞
中田喜直 作曲・編曲

1. あ さし かぜ からお るに が く え ん の か が
う しの が の そ らー の あ じ さ み ど てり た
び

かおるにの
かさそ

やけ ゆ く きわ し かい う えき あ わ さ さ が の は に
ゆ き わ か か えき さ ち あ う り どて

う えき
し かい
き わ

ひ せ い ま ゆ の い き た く ー は げ み て す み ー と う の あ
か つ い に ら く い せ い ら の ー が く ふ う お こ り く と ろ の あ
あ ま り き と う よ ら こ の ー し ん り と へ い わ で と こ し え に われ

る と ら き きの み ち が に れ る ち か こ う ー あ あ っ
ち か こ う ー あ あ っ

1. 2. 3.
り り 2. そ で
3. き け

こ

(注) 原調或は本調でもよい